

事務事業名		飯田古墳群保護活用事業		会計		一般会計		実施区分				
H28担当課等名		生涯学習・スポーツ課		H28係等名		文化財活用係		H27係等名		文化財活用係		
基本計画上の位置づけ		政策		6		地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり		施策		63		
地域		63		地域資産の保存・継承								
目的	対象(誰・何を)	前方後円墳をはじめとする、市内にある古墳						対象指標	指標名及び単位		27年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	全国に誇れる地域資産として後世に伝えていくとともに、人づくり・まちづくりに活かす							市内で確認された古墳数(基)		523	
	向上させたい上位施策の成果指標	保存・継承されている地域資産の数(累計)							優先的に保存活用すべき主要古墳数(基)		13	
目標	種別	指標名及び単位				27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)		
	成果指標	古墳見学会・学習会の開催回数(回)				15	10	20	-			
	成果指標	指定準備が整った古墳数(基)				13	13	13	-			
定性目標												
事業概要	<p>・飯田市は、22基の前方後円墳・帆立貝形古墳をはじめとする多くの古墳の存在が示すとおり、古墳時代においても繁栄を遂げていた地域であった。こうした背景には、当時の飯田の地が、軍事、運輸上から重要であった馬の生産・管理に携わり、中央政権(ヤマト王権)との強いつながりをもっていたためである。ごく限られた範囲に集中的に築造された群としての一体性、様々な墳形や石室構造を持つ多様性、出土遺物の中には飯田型とも称されるものが存在する独自性が飯田古墳群の重要な特徴である。飯田古墳群は、律令制度による中集権国家が成立する前の中央と地方の関係を地方の視座からとらえられる点で日本史上重要な価値を持っており、全国的にも注目されている。</p> <p>・本事業は、市内の主要な古墳を飯田古墳群と総称し、保存活用を図ることを目的としている。その方策として、以下のような事業展開を行う。①飯田古墳群の日本史上の価値を明らかにし国史跡指定を目指す、②古墳を核とした人づくり・まちづくりを地域と連携して進める、③その存在と価値に対する市民理解が進むよう積極的な情報発信を行う。</p>											
27年度事業内容	事業内容					名称			活動指標			
	1 国史跡指定に向けた文化庁・県教委との協議等の実施					1 実施回数			1 5回			
	2 報告書刊行					2 刊行部数			2 300部			
	3 地域との連携による学習会・保護活動・意見交換会等の実施					3 実施回数			3 20回			
	4 市内外への情報発信					4 実施回数			4 3回			
事業コスト		26年度決算額	27年度予算額	27年度決算額	28年度予算額	特定財源内訳、補足						
事業費計(千円)①		2,400	2,403	2,400	2,487	(国)文化財保護補助金(1/2)						
国庫支出金		1,200	1,200	1,200	1,200							
県支出金												
起債												
その他												
一般財源		1,200	1,203	1,200	1,287							
人件費計(千円)②		7,152		10,728								
正規職員所要時間		2,000		3,000								
臨時職員所要時間												
総事業費①+②		9,552	2,403	13,128	2,487							
事業内容・目標達成状況の振り返り	<p>・古墳の権利者や地域の協力と文化庁・県教委の指導を得て、平成28年1月29日に文部科学大臣へ史跡指定の意見書を具申した。</p> <p>・パンフレットを作成し、国史跡指定の説明会資料、学習会等の提供資料として活用した。</p>											
改革改善の考え方	①問題点	飯田古墳群の存在や、歴史的価値を広く周知するため、情報発信機能を充実させる必要がある。										
	②改革提案	主要な古墳が存在する地域等と連携を図りながら古墳の価値と保存活用についての講座や講演会等を開催する。市民向け冊子等の作成、ホームページへの掲載情報の充実を図る。また指定後は美博と連携した特別展を開催する。										